



インみたか通信

52号

発行：NPO法人障害者生活支援センター インみたか

2021年3月

新人ヘルパー、日々、奮闘中!!

(熟練ヘルパーと新人ヘルパーの同行支援)

障害者生活支援センター インみたか理事長 宮城 永久子

2018年度より、重度訪問介護を利用する障害支援区分6の利用者に対して、事業所に新たに採用されたヘルパー(以下、新人ヘルパー)が介助に入る場合、熟練(先輩)ヘルパーが同行し、介助指導できる制度が新設された。新人ヘルパー1人につき120時間まで、先輩ヘルパーが同行するための介護給付費(ヘルパー1人あたり85%)が給付される。



新人ヘルパーが、重度の障害がある利用者の介助に入る際は不安が大きく、また利用者にとっても大きな負担となっていた。

インみたかには、毎年数名の大学生が障害者の暮らしやヘルパーの仕事に興味を持ち、連絡をくれる。



現在、彼らはこの制度を活用し、先輩ヘルパーに同行し、懸命に障害者の介助に取り組んでいる。彼らにとって、利用者とコミュニケーションが取れ、だんだん介助に慣れるまで、先輩ヘルパーがそばにいてくれることは大きな安心感に繋がる。

彼らが大学を卒業し、社会に出た時、障害者と関わり、生活をサポートしたという経験と自信は、多くの障害者の助けになるかもしれない。

コロナ禍でヘルパー不足が深刻化する中、学生たちの頑張りには本当に心救われる。



不要不急はだれが決めるのか？

ヘルパー派遣部所長 小林 延芳

緊急事態宣言下では、日中も含めた「不要不急の外出自粛」が呼びかけられています。
僕も休みの日は「3月までの辛抱」と家族と家でダラダラ過ごすことが、
日常となりました。



一方ガイドヘルプを利用する障害者の中には、コロナウイルス自体が理解
できない人、理解できても家にとどまることでストレスを解消できない人もいます。
家で楽しむ工夫もした上で、それでも解消しきれないストレスを、感染予防行動を徹底した
外出で解消することは、必要で今やるべきことだと考えます。

長引く自粛生活の影響で、同居家族が本人支援を負担に思ったり、障害者本人がストレスで
精神を病むことが、じわじわと起きています。

先日ガイド中に「緊急事態中なのだから、家にいた方がいいわよ。」と通りすがりの人に声を
かけられました。

不要不急を決めるのは、『事情を知らない他者であってはならない』と僕は思います。
一般的に緊急事態宣言が明ければ、「少しは自粛を緩められる」と気持ちを保てますが、
自分で見通しが立てられない人の不安はより大きく、その支援の必要性も日々感じています。



ぽっぴくんの鼻唄



前回の通信51号に、コロナウイルスの影響により移動支援の事業収入が激減したこ
とを受け、三鷹市と武蔵野市が独自の助成を打ち出して下さり、とても救われたという
記事を載せた。それに対する感謝の気持ちを直接伝えたいと思い、11月下旬、宮城と小林
が三鷹市と武蔵野市の庁舎を訪れ、お礼状を渡してきたんだって。

コロナウイルスの脅威に不安があおられ、気持ちがふさぐ中、障がい福祉の現場の声に
真摯に耳を傾けてくださったり、事業所の窮状にいち早く手を差し伸べ、積極的に
支援して下さったり、行政の心意気を感じると、折れそうになる心がまた前を向く。

地域の自治体と顔の見える関係性のもと、福祉事業を進めていけることってとても素晴
らしいことだね。ルンルン♪

「生活の中にピアカウンセリングを取り入れて、ありのまま生きる」

今回、ご紹介する鷹さん(ニックネーム)は、40代の男性です。鷹さんには精神障がい(統合失調症)があり、ぽっぷでピアカウンセリングを始めて一年ほどになります。以前は三鷹市内の就労支援施設で働いていましたが、その経験を活かし、今は生活雑貨のお店で、障がい者雇用で働いています。

宮城：どのような経緯でぽっぷを知ったのですか？



鷹さん



何かの学習会でぽっぷの男性職員が話しているのを聞いて、興味を持ちました。ホームページを見たら、ピアカウンセリングというものがあることを知って、やってみたいなと思いました。

宮城：精神的なサポートとか、自己信頼の回復などといったところに関心を持ってくださったんですかね？



鷹さん



そうですね。最初は精神障がいの僕が受けてもらえるのか不安だったんですが…。初めてピアカウンセリングをしてみて、丁寧に話を聞き、自分に寄り添って会話をしてくれたのが良かった。「仲間」と言ってくれて、その言葉が嬉しかったです。そのように言ってくれる支援者は初めてだったので。

宮城：鷹さんはインミタか通信もよく読んでくださっていますよね？ヘルパー証についての記事に寄せてくださった感想が印象的でした。



鷹さん



実は僕にも似たような体験があつて。とてもお世話になっている支援者がいるんですが、その方はいつも首から身分証を下げてくるんです。支援者なので立場を明確にする必要があるのはわかるんですが、違和感というか、その方との距離を感じてしまって。だから思い切って、その気持ちを伝えてみたんです。そうしたら、僕の気持ちを理解してくれたのか、次の面談から身分証を外してきてくれて、嬉しかったです。

宮城：自分の内面に気づき、その気持ちを率直に伝えることができたのは、ピアカウンセリングの効果かもしれませんね。



「僕には障がいがあるけれど、その状況の中で働き、生活をし、精一杯生きている。」と表情明るく話される鷹さん。コロナ禍のため、趣味で通っている空手のサークルで思いっきり活動できないことが寂しそうではありますが、これからもピアカウンセリングを通し、心の負担を軽くしながらキラキラ生活していきましょうね。(宮城)



はつもうで
 がつふつか
 1月2日の **初詣**

ぽっぷ職員 金子 洋祐・南雲 潤

ぽっぷでは毎年、一人暮らしやグループホームに入居している方を対象として、1月2日に初詣を開催しています。年末年始は訪問看護やヘルパーの派遣がお休みになる事が多く、一人で過ごす時間が増えるので、参加者の元気確認も兼ねています。

今年はコロナ禍での開催の為人混みを避けるために、神社への参拝を取りやめ、散歩と昼食のみに切り替えました。わくわく♪のおみくじもトランプもあります。寂しいけれどこれが現実だと思いました。

年始に届いた年賀状の中に「コロナが落ち着いたら、以前の様にぽっぷのイベントに参加したいです。」という利用者さんからの文字がありました。本当にありがたい事です。

皆様が日頃、自粛をしている頑張りが実を結び、来年は平穏な日常を送る事ができればと思っています。



匿名でご寄付をいただきました。

当法人への応援の気持ちと受け止め、コロナ禍で働いてくださるヘルパーの方々が日頃使うもの、利用者の支援を行う上で必要な物品などの購入に充てさせていただきます。

三鷹市障がい者相談支援センター ぽっぷ

〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-18-2階 電話 0422-71-0901 ファックス 0422-26-5141
 メール poppu@dream.ocn.ne.jp ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~poppu/>

障がい者計画相談センター くも

〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-23-A102 電話 0422-26-7229 ファックス 0422-26-7229

障害者生活支援センター インみたか ヘルパー派遣部

〒181-0013 三鷹市下連雀4-15-23-A102 電話 0422-71-0902 ファックス 0422-24-6266
 メール in-mitaka@iaa.itkeeper.ne.jp ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~poppu/inmitaka/index.html>

みなさま
 皆様からの
 ご意見・ご感想が
 私たちの励みにな
 ります。
 ぜひきかせて下さい。
 お待ちしています。